

## 令和6年度第4回宇部市短期集中予防サービス（通所型C）検討委員会 議事録

日 時：令和7年2月19日（水）19時～20時50分

場 所：宇部市役所 3階 3-3、3-4会議室

出席者：委員14名、通所型C事業所4事業所、事務局6名

### 議事

#### 議題1 「（通所型C）試行サービスの検証について」事務局から説明

##### ・短期集中予防サービス（通所型C）実施4事業所から事業の効果・課題について発表

#### ＜事業所へ質疑応答＞

〔委員〕：利用人数と対応する人員体制について聞きたい。

《事業所》：立ち上げたばかりの事業所で、今回火曜日と木曜日の半日ずつサービス提供を行い、その時間に通常のデイサービス利用者の方を入れなかったこともあり、かなり余裕のある状態でいった。人員は、理学療法士・作業療法士の計3人、看護師1人、介護福祉士1人の計5人で行い、利用者は火曜日1人と木曜日6人だったので、人員はかなり恵まれた環境だった。また、通常のデイサービスの敷地を全て使い、かなり広いスペースでサービス提供できたことは、他の事業所の方とは違う点かと思う。

〔委員〕：実際2～3人をサービス提供する場合、人員はどの位で運用できると思うか。

《事業所》：実際、利用者6人に対して2人だと対応が難しいかと感じた。先程、別事業所も言われていたが、5名に対して2人でも厳しいかと思う。それは、(6人利用者前提で)スタッフ2人が利用者2人を面談中、面談以外の残り4人に対して全体のアプローチが必要になる。また、スタッフ1人が訪問プログラムに出かける場合、残り5人を1人で行うのは現実的ではない。理想は5人に対して3人ぐらいだと考える。あと仕組みについて、面談する以外の方はビデオで出来るトレーニングなど手法を構築すれば問題は解消できるかと思うが、その為に事前準備が必要であることとサービスの質の点では疑問に思うこともあるので、最低でも5人に対して3人はスタッフが必要かと思う。

〔委員〕：私は、県内の通所型C事業所を見学したことがあるが、ある施設では、面談する時間以外は本人の自主性ということで各々することを考えてもらい、それをサポートしていくと言われていた。今後、みなさんも経験を積まれる中でそういった手法も取り入れていかれるようになってくるのではと思う。

〔委員〕：地域包括支援センター職員も含めた質問になるが、試行サービスの卒業が8割あるということで、私は同行訪問しか経験していないので、今回のサービス卒業というのがスムーズに卒業となったのか、それともなんとか卒業に至ったのか。この紙面で表れていないエピソードなどあれば教えて欲しい。

《事業所》：担当した方の中で、サービス提供中に進行性の疾患が分かった方がいた。市とケアマネとで話し合い、卒業判定の時には今の状態で介護サービスは必要ないと判断した。ただ、進行性の疾患なので何か予防できるものはないかという中で、介護サービスの話も

あったが、一旦元の生活に戻りましょうということで卒業されたケースがあった。今後、その線引きというのが課題と感じた。

《事業所》：色々な方がいて、会話が苦手な方はアセスメントが大変だったが、毎週欠かさず来てもらい面談の中で自信を持ってもらうことを繰り返すことで、自然に卒業に至ったと実感している。

《事業所》：利用者5人全員卒業したが、気持ちよく卒業できたかというところではない方もいた。後期高齢者で、家族がすごく関わって支援されていて、定期的に受診にも行かれていますので、社会資源を活用されているということで卒業された方もおられた。また、別の方では、元々地域の活動に参加されている方で、スタートから社会資源をフル活用されているので、サービス提供中に事業所側から新しい何かを提案出来たわけではなかった。それも卒業と言われると何とも言えない感じだった。

《事業所》：利用者の中で1人、認知機能が低下した方がいたが、今の時点では大丈夫ということで卒業された。どのケースも複雑に考えることなくすんなりと卒業された。

〔委員〕：この事業がスタートした時は不安があった。私が担当した方は、認知機能の低下がみられる方で、もしかしたら介護サービスが必要かと思った。この事業を通して、初回の表情と事業が終わった後の表情が全然違った。本人からも自分自身を見つめ直すことが出来た事とすごく前向きな意見がでたり、今も目標に沿って頑張っているの、なるべく今の生活が維持出来るように今後も支援していく。

〔委員〕：私が担当した方にこの事業の感想を聞いたところ、「行っても行かなくても変わらなかった」と言われていたが、ノートで書く習慣がついて振り返れるという事で、12月で卒業されたが今も書き続けている。また、元々自分をしっかり持っている方で、人との交流もそこまでしたいという方ではなかったが、この事業に参加する中で、人と交流してみたい・外に出てみたいと意欲が出てきた。今後はこの方に合う外出の場を一緒に考えていけたらと思う。

〔委員〕：4事業所の発表を聞いて、最初の関わりから卒業を目指していくことで、ほとんどの事業所でスムーズに卒業されたので、やはり最初の導入のところから卒業に向けて進めていくことが大事だと感じた。また、卒業に向けてその後の受け皿があると具体的な目標に繋がるのではないかと思った。自分で何かをするのが卒業後の目標になると、出来る間はいいが、自分で続けていくことが難しくなった時に、こんな受け皿があるというのが提案できると、より卒業に対しての目標や意欲に繋がるのではないかと思う。

〔委員〕：私が担当した方は、すんなり卒業された。デイサービスへ行かれていた頃は、そこまで著しい変化はなかったと思ったが、家族の方はものすごく良い方向へ変化したと喜ばれていた。卒業後、また就労がしたいと希望や意欲はあるが、まだそこまでは難しい状態である。ただ、モチベーションがすごく上がったので効果があると思う。私の地域包括支援センターが担当した4人は全員卒業された。みなさん大きな変化があったわけではないが、その後のいろいろな活動に結び付いている点では、良い事業だったと職員みんなと話している。

〔委員〕：今回、ケアマネとして関わったが、早くからリハ職の方が関係してもらうことで、「意外に出来るかも」とプラスαをやってみようとか、今までの歩く距離を伸ばしてみようとか利用者が安心して出来るようになったのは、介護職だけが関わるよりも早かった。効果についても利用者自身が感じられていた。私も考え方が変わった。

### ＜事務局へ質疑応答＞

《事業所》：サービス提供事業所について、本格実施時に何事業所程度を想定されているか。

【事務局】：市内にどの程度かは、現時点で詳細は決まっていない。利用者の居住する圏域内の事業所にサービス提供をしていただくことを考えている。

《事業所》：今回試行サービスでは、送迎距離が近い事も非常に助かった。圏域内ということであればありがたい。

《事業所》：今後対象になる方は、基本チェックリスト該当者と要支援1・2だが、先行自治体のように全件を対象にするのか。それとも何か特例で通常のデイサービスをすぐに利用できるなどあるのか。

【事務局】：基本的には、全員が短期集中予防サービスに参加してもらおう。特例の詳細についてはこれから検討する。

〔委員〕：試行サービスでは、生活支援コーディネーターとして卒業カンファレンス等に参加した。今日の会議の中でも、社会資源や受け皿がたくさんあると良いという話もあり、普段から宇部市社会福祉協議会でも社会資源づくりを地域包括支援センターや地区担当保健師の方と取り組んでいる。地域のサロンは昨年3月末220箇所だったのが、新たに立ち上げたサロンが加わり担い手が高齢で休止しているサロンを差し引いて、現在229箇所ある。ただ、我々も今回関わってみてサロンの良さを実感できたのと、サロンを実施する場所という距離の問題や内容が思っていたのと違うとか、男性が女性ばかりのサロンは行きにくいとかミスマッチが出てくるという意味でいろんなサロンがあった方が良いと感じた。今後本格実施する上で、どんなものがあつた方が良かったのか集約されていると支援しやすい。

〔委員〕：今後のスケジュールの中で、医師会や民生委員へ説明と書いてあるが、他市では病院の連携室へ説明に行かれている。宇部市でも検討して欲しい。

【事務局】：今後、病院の連携室や居宅介護支援事業所など宇部市の自立支援事業に関係する機関には説明をしていきたいと考えている。

〔委員〕：今後の課題の中で、同行訪問状況報告書の様式を変更するとあるが、様式はその報告書を受ける事業所側の意見を収集する予定はあるか。

【事務局】：報告書の様式は、同行訪問されたリハ職の方の意見を基に修正していくが、出来上がったら今回参加された事業所の方にも確認してもらおう。

〔委員〕：報告書を作る側は指定された内容で作ることは可能だが、どちらかという受ける側である事業所側の意見の方が重要だと感じた。

〔委員〕：サービス提供事業所の報酬単価8,000円の根拠は何か。

【事務局】：県内で通所型の短期集中予防サービスを実施する自治体の単価を参考にしている。

〔委員〕：先程、事業所の方から利用者5人に対して3人スタッフが必要とあったので、この報酬単価で良いのかと感じた。

【事務局】：報酬単価については、宇部市としてこの事業を初めて行うため、今後も検討していく。

〔委員〕：報酬単価8,000円に送迎も含まれているか。

【事務局】：含まれており、特に送迎加算は考えていない。

〔委員〕：今日事業所の発表を聞いて、とても良い取り組みをされていると思った。その中で人員も結構な人数が関わっており、設備の問題等も含め、もう一度報酬単価を検討されても良いかと思った。今から事業所を募る中で、事業所が手を上げようと思う報酬単価なら多くの事業所に実施してもらえるのではないか。また、工夫として送迎はエリアを限定して行えば、今の報酬単価でもよいと思う。その場合、事業所が固定されてしまい利用者の方が合うかどうかのリスクがある。今後いろいろな検討をされたら良いと考える。

〔委員〕：すごく良い取り組みをされていて、それぞれ事業所が努力されていると感じる。今後県内各市に広げるために、具体的な取り組みを確認しながら実績を積んで欲しいと思った。県の各デイサービスの状況も聞きながら市へ役に立つ情報があれば提供していきたいと思う。

議題1について承認。